

美しい森林づくり

「ニッセイ岩見の森」育樹ボランティア活動 (除伐) について

秋田森林管理署

平成29年5月27日(土)、(公財)ニッセイ緑の財団と分収造林契約を締結している「ニッセイ岩見の森」において、育樹ボランティア活動(除伐)が行われました。

(公財)ニッセイ緑の財団は、国有林・自治体の公有林を活用した森林作業体験による森林愛護の普及啓発を目的に、平成4年からこれまでに「ニッセイの森」を全国187箇所(約435ha)に設定し131万本を超える植樹をしています。

今回、育樹活動を行った場所は、秋田市河辺岩見の国有林で平成20年にミズナラ、コナラ等の広葉樹を主体に約3ha植樹しており、これまで平成20年の植樹と平成22年の下刈でもボランティア活動を行っております。

当日は、早朝から強い雨が降り開催が心配されましたが、関係者の願いが届いたかのように開会1時間前には見事に晴れ上がり、無事開催することが出来ました。

参加者は、主に日本生命秋田支社の社員や家族等約50名、また、本社からは小林副社長も参加されました。

秋田森林管理署は作業指導の要請を受け、二村署長ほか計7名が、また東北森林管理局からは松葉瀬森林整備部長も参加しました。



作業説明をする田下森林官補

主催者等挨拶のあと、鶉養森林事務所の田下森林官補が作業指導を行いました。参加者のほとんどは山仕事の経験はなく、また女性が多く、中には小学生もお

り、鎌で怪我をしないよう「手元・足元注意」「周囲確認」「力の入れすぎに注意」等の注意事項に熱心に耳を傾けていました。

慣れないヘルメット・手袋を装着し、約10人のグループで5班に分かれ、指定された区域で署職員や森林組合職員に切る木を確認しながら慎重に灌木や下草を刈り払っていました。



除伐作業の様子

最初のうちは、初めて手にする鎌に「おっかなびっくり」といった感じでしたが、10分もするとコツを覚えたのか、鎌を振る姿も様になってきました。また、小学生の女の子は、鎌が大きく作業が

大変そうでしたが、指導者の補助を受け真剣に作業していました。

山とは対極にありそうな仕事をされているニッセイレディの方々が、夢中になって鎌を振り、汗を流し晴れ晴れとした表情をしているのを目の当たりにし、林業に携わる者として、何とも不思議な感覚とともに、とても清々しい気分になりました。

作業の終盤には、調子が出てきたのか、刈り払う場所を積極的に求めている方も多く見られ、終始なごやかに心地よい汗をかき、全員が満足して無事作業を終えることが出来ました。

今回参加された方々が、作業体験で山に興味を持ち、森林・林業に対する理解を深めて下さればとの思いを強く感じた一日でした。



育樹ボランティアに参加された皆さん